

17・18世紀のフランスの音楽とバロックダンスで描き出す一人の女性の人生



# わたしはおどる

## Moi Je Danse

2026.10.10(土) チャボヒバホール(東京都立川市幸町4-17-1)

2回公演(各回限定50席)：14:00開演(13:30開場) / 17:30開演(17:00開場)

料金(全席自由)：前売り6,000円(当日6,500円) / 学生(U25)5,500円(当日6,000円)

出演：岩佐樹里(バロック・ダンス)  
折原麻美(ヴィオラ・ダ・ガンバ)  
懸田貴嗣(バロック・チェロ)  
佐藤亜紀子(テオルボ、バロック・ギター)  
平井み帆(チェンバロ)

曲目：M.マレ：スペインのフォリア  
J-B.リュリ：ガラテアのシャコンヌ  
A.カンブラ：スペインのアントレ  
J-B.バリエール：3声のソナタ第2番ニ短調 他

構成：中込遊里、岩佐樹里、平井み帆 / 演出：中込遊里

チケット取り扱い：TIGET <https://tiget.net/events/486368>  
東京古典楽器センター tel 03-3952-5515



主催：ミューズコンサート企画 tel&fax 0422-44-5306  
e-mail muse\_cp@mbr.nifty.com



※未就学児の入場はご遠慮ください。  
※車椅子席ございます。

(事前にミューズコンサート企画までお知らせください。)

TIGETでお申し込みの方は備考欄にお書きください)

※公演中止以外の理由での払い戻しはいたしません。

※都合により曲目、出演者が変更になる場合がございます。

# わたしはおどる

バロック時代、音楽は人間の感情を表すことを目的とし、オペラという新しい音楽様式を生み出した。また、宮廷ダンスは貴族が貴族であるために習得すべき教養として発展し、現代に連なるクラシックバレエの礎となる。

18世紀末に一旦途絶え、20世紀に再び蘇ったバロックの音楽とダンスを、現代を生きる私たちが結びつための「ことば」として捉えてみたらどうだろうか。

本公演では、17・18世紀のフランス音楽と舞踏の様式を単に再現するのではなく、一人の女性の人生を手がかりに、ダンサー、演奏家、そして観客が出会う場をひらく。

音と身体にあわいに、その瞬間ごとに生まれる感情や関係が、時には激しく、時には優しく、立ちあがっていく。

## 岩佐樹里(バロック・ダンス)

松山バレエ学校にてバレエを学ぶ。2015年から8年間Amherst Early Music Festivalにて講師、ソリストダンサーを務めた。コンサートに出演する傍ら初心者にも分かりやすいバロック・ダンス講座には定評がある。劇場版「ヘルサイユのぼら」、映画「終点の女の子」のダンス監修を務める。バロック・ダンスをD.オルソン氏、K.マインツ氏、浜中康子氏に師事。現在は台湾でも精力的に活動の幅を広げている。Julie Baroque Dance Salon主催。著書「踊って楽しむバロック舞曲」(吉澤実氏との共著)

## 折原麻美(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

国立音楽大学音楽文化デザイン学科(音楽学)卒、同時に有馬賞受賞。在学中ヴィオラ・ダ・ガンバを始め、卒業後渡欧。ブリュッセル王立音楽院古楽器科にて学部、修士、研究科を優秀賞付きで修了。ヨーロッパ各地における音楽祭出演他、数々の招聘演奏を行う。帰国後は、ルネサンス〜バロック音楽を中心に、ジャンルを越えて楽器の魅力を発信。AYAMEアンサンブル・バロック、デュオ・ルーリーのメンバー。墨田区主催2019年度「演奏家の船出コンサート」グランプリ。アイゼナハ音楽院講師。

## 懸田貴嗣(バロック・チェロ)

東京芸術大学院修了後、ミラノ市立音楽院で学ぶ。伊ボンポルティ国際古楽コンクールで第1位受賞。リクレーツィオン・ダルカディア、ラ・ヴェネツィアーナ、パッサ・コレギウム・ジ・パンのメンバーとして、世界各地の音楽祭に招かれている。これまでエマ・カークビー、ミカエラ・ベトリ、エンリコ・オノフリなど多くの著名なソリストと共演している。CD「ランゼッティ/チェロ・ソナタ集」で文化庁芸術祭優秀賞を受賞。最新CD「コスタンツィ/チェロ・ソナタ集」も朝日新聞等メディアでもとりあげられ、話題となっている。

## 佐藤亜紀子(テオルボ、バロック・ギター)

東京芸術大学音楽学部楽理科卒。ドイツとスイスにてK.ユングヘーネル氏とH.スミス氏にリュートを師事。ソロおよび通奏低音奏者として日本各地で活動。パリ在住の歌手、高橋美千子とCD「たまひび」をリリース(2021)。ソロでは「ララバイ、イギリスルネサンス期のリュート音楽」(2014)、「A・ピッチニーニ リュートとキタローネの為にタブラチュア曲集」(2023)は朝日新聞のfor your collectionの推薦盤となる。アイゼナハ音楽院講師。Youtubeチャンネルatelierlakko

## 平井み帆(チェンバロ)

桐朋学園大学卒業。デン・ハーグ王立音楽院修了。現在、日本各地で活発な演奏活動を行っている。CDに「イタリアへの夢 I, II, III」(レコード芸術特選盤)、「ブクステフーデ: ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェンバロの為にソナタ全集」(文化庁芸術祭優秀賞)等がある。愛知県立芸術大学非常勤講師、富山古楽協会講師を務める他、各地でマスタークラスを行う。2024年、ソロCD「チェンバロの旅」(音楽現代特選盤、朝日新聞推薦盤)をリリース。https://hirai-miho.music.coocan.jp/

## チャボヒバホール アクセス

- バス
    - ・JR中央線「立川駅」北口9番のりば → 「古民家園東」下車(徒歩2分)
    - ・6・7・8番のりば → 「砂川九番」下車(徒歩4分)
    - ・西武拝島線「東大和市駅」西武バス・立川駅北口行き → 「砂川九番」下車(徒歩4分)
  - 多摩モノレール
    - 「砂川七番駅」下車(徒歩13分)
- ※お車でお越しの方は近隣のコインパーキングをご利用ください。



# Moi Je Danse

## ■演出メッセージ

平井さん、岩佐さんの「バロックダンスを研究対象としてではなく舞台芸術として上演したい」という想いにとっても共感した。私自身も、歴史を語る戯曲を「今を生きる知恵」として立ち上げることをモットーに創作を行っている。本作では、音楽や舞踏を過去の異国のものとして鑑賞するのではなく、今を生きる私たちのために生まれるものとして描く。客席と舞台を分けない空間のなかで、お客様とダンサー、演奏家が同じ時間を過ごしなが、一人の女性の一生を見つめる。音と身体にあいだに生まれるささやかな変化や気配を、ともに感じてもらえたら嬉しい。

## 中込遊里(演出)

演出家・演劇講師。日本大学芸術学部演劇学科卒業。シェイクスピア戯曲を「コンテンツボラー・能」として連続上演する劇団、鮭スベアレ代表。2022年、The International Prize The Naked Theatre by Teresa Pomodoro (Spazio Teatro NO'HMA, イタリア・ミラノ)に「鮭スベアレ版・マクベス」で招聘され、審査員特別賞を受賞。高校演劇の講師の他、U25のコミュニティ「演劇ネットワークばちばち」総合ディレクターを務めるなど、人材育成にも力を注ぐ。その場に集う人々の力をとこまでも信じることから作品を編み出すことをモットーとする。



チャボヒバホール

